(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2008 年2 月28 日 (28.02.2008)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 2008/023472 A1

(51) 国際特許分類:
A45D 44/14 (2006.01) *G09B 19/24* (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2007/056168

(22) 国際出願日: 2007 年3 月26 日 (26.03.2007)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願2006-227270 2006 年8 月24 日 (24.08.2006) JP

(71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 有限会社美容室ゼロ (HAIR SALON ZERO LTD.) [JP/JP]; 〒8240005 福岡県行橋市中央二丁目３番７号 Fukuoka (JP).

(72) 発明者; および

(75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 久保 義明 (KUBO, Yoshiaki) [JP/JP]; 〒8240005 福岡県行橋市中央二丁目３番７号 有限会社美容室ゼロ内 Fukuoka (JP).

(74) 代理人: 榎本 一郎 (ENOMOTO, Ichiro); 〒8020001 福岡県北九州市小倉北区浅野１丁目２番３９号 小倉興産１４号館４０５号 Fukuoka (JP).

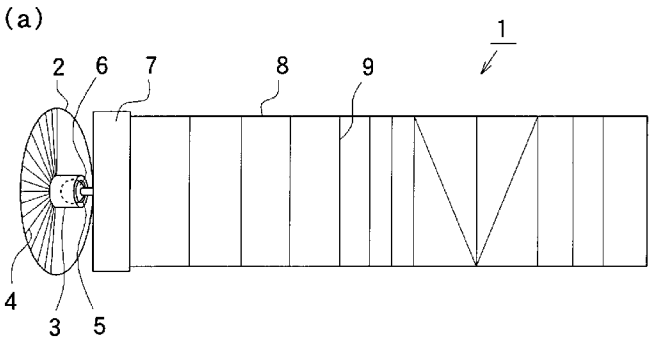
(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RS, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL,

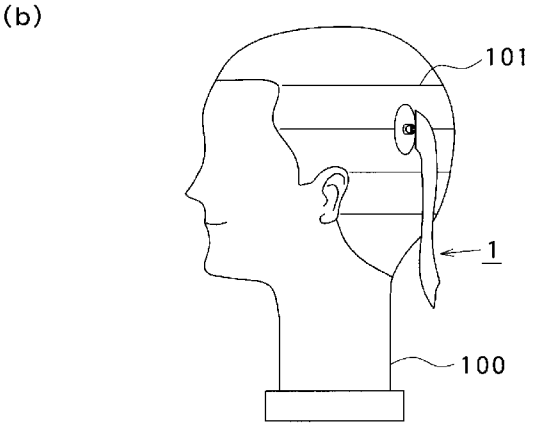
[続葉有]

WO 2008/023472 A1

(54) Title: TOOL FOR HAIRDRESSING BEAUTY TECHNOLOGY TRAINING AND MODEL FOR HAIRDRESSING BEAUTY TECHNOLOGY TRAINING

(54) 発明の名称: 理美容技術練習具及び理美容技術練習用模型





(57) Abstract: A tool for hairdressing beauty technology training in which a correct posture or the like for cut or winding can be judged by oneself because twist and angular misalignment in the horizontal direction can be judged easily when it is drawn out while being held between the fingers, correct posture or stance, the position of a hand or scissors or the like for eliminating twist or angular misalignment can be learned, and one's habitat or lacking technology can be judged objectively and thereby basic technology of correct cut or winding can be learned in a short time. A head model which can be used repeatedly even after completing cutting by replacing for a new one is also provided and the running cost can be suppressed. The tool for hairdressing beauty technology training comprises a securing portion (2) secured to a head model (100), a coupling portion (3) formed at the securing portion (2), a fixing portion (6) formed removably at the coupling portion (3), and one or a plurality of stripe portions (8) having one end connected with the fixing portion (6).

(57) 要約: 指の間に挟んで引き出すときの捻れや水平方向の角度ずれの有無がわかり易いため、カットやワインディングのための正しい姿勢等を自分で判定することができ、さらに捻れや角度ずれがなくなるような正しい姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットやワインディングの基本技術を短時間で習得することができ、さらに切り終えてしまっても新しいものと交換すれば

[続葉有]

SM, SV, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MT, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:
— 国際調査報告書

頭部模型は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる理美容技術練習具を提供することを目的とする。　頭部模型１００に固定される固定部２と、固定部２に形成された連結部３と、連結部３に着脱可能に形成された取付部６と、取付部６に一端が接続された１乃至複数枚の帯状部８と、を備える。

明 細 書

理美容技術練習具及び理美容技術練習用模型

技術分野

[0001] 本発明は、髪のカットやワインディングの練習を行うときに用いる理美容技術練習具及び理美容技術練習用模型に関するものである。

背景技術

[0002] 従来より、美容師や理容師、特に美容師や理容師の練習生や初心者が整髪技術の基本となる髪のカット技術や、パーマネント用ロッドに髪を巻き付けるワインディング技術を習得する場合は、合成樹脂材等で造形した頭部模型に天然又は合成樹脂製の毛髪を植毛した練習用ウィッグが使用されている。練習用ウィッグを使って髪のカットを練習する場合は、カットする部分の毛髪を薄く分けとり指と指の間に毛髪を挟んで引き出し、引き出した毛髪の先端を鋏でカットすることにより、目的とするヘアスタイルを作るための姿勢、スタンス、目線、毛髪を分けとる角度、分けとった毛髪を指の間に挟んで引き出す角度、鋏でカットする長さや角度を習得するのである。これらは、所望されるヘアスタイルに応じて組み合わせ、使い分けられるので、ヘアカットの基本技術としてまず習得しなければならない技術である。

しかしながら初心者は、イメージするヘアスタイルと、分けとった毛髪を引き出す角度やカット位置との関係がなかなか理解できず、また練習用ウィッグに対する姿勢やスタンスが不安定なため、分けとった毛髪を指の間に挟んで引き出す際に、姿勢やスタンスを変えるのではなく、自分では気付かないうちにカットし易いように毛髪の束を捻ったり、引き出す角度が一定にならずにばらばらになったりすることが多く、カットされた毛髪の毛先によって形成されるラインや面がギザギザになったり波を打ったような形になったりすることが多かった。練習用ウィッグでは、カットされた毛髪の毛先によって形成されるラインや面を確認しないことには、自分のカット技術が良いか否かを判断することができないため、カットの練習中に、初心者や練習生が自分自身で姿勢やスタンス等の基本技術の習得度を判定できなかった。そのため、自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができず、基本技術の習得に時間を要して

いた。

一方、初心者にこれらの技術を教える指導者は、目的とするヘアスタイルに対するカットの動作を見て、姿勢やスタンス、分けとった毛髪を指の間に挟んで引き出す角度等の基本技術について指導するのだが、これらの技術は自分が経験によって習得したものであるため、練習生や初心者に客観的に教えるのは極めて困難であった。また、指導を受けた練習生や初心者も、カットの動作の適否を客観的に判定する基準がないため、なかなか理解できず、基本技術の習得に時間を要していた。

[0003] また、従来の髪のカットの練習具としては、例えば(特許文献1)に開示された「頭髪のない原寸大の人頭模型本体と、方形状等に形成された基材に毛髪を植設してなり人頭模型本体の頭髪部を部分的に覆う毛髪体とを有し、毛髪体の基材が人頭模型本体に対して着脱自在に形成され、複数の毛髪体が組をなして全体として人頭模型本体の頭髪部を全体的に覆うヘアカット練習用具」が知られている。

(特許文献2)には「幅が5～8cmに形成され上端部中央に形成された孔に挿通された紐で纏められたシートからなる髪カット練習用具」が記載されている。

特許文献1:特開2000－342333号公報

特許文献2:特開平10－228232号公報

発明の開示

発明が解決しようとする課題

[0004] しかしながら上記従来の技術においては、以下のような課題を有していた。

(1)(特許文献1)に開示の技術は、従来は人頭模型本体に毛髪が固着されていたため、カット練習により毛髪を使い切ると人頭模型本体も廃棄するしかなくコストが嵩み、特に特定部位のカット練習を繰り返し行うことができないという課題を解決するためのもので、毛髪体の基材を人頭模型本体に着脱自在に形成したことで、使い切った毛髪体を適宜取り替えることにより人頭模型本体を繰り返し使用して練習することができるものである。しかしながら、方形状等に形成された基材に植設された毛髪は太い束のようになっているため、この毛髪を分けとって指の間に挟んで引き出し、それをカットするという動作自体は、従来の練習用ウィッグを使った場合と同様なので、カットされた毛髪の毛先によって形成されるラインや面を確認しないことには、自分の

カット技術が良いか否かを判断することができない。そのため、初心者や練習生は、カットの練習中に自分自身で姿勢やスタンス等の基本技術の習得度を判定できないので、自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができず、基本技術の習得に時間を要していた。

(2)(特許文献2)に開示の技術は、天然や人工の毛を用意するためのコストを抑えることができるとともに、カット練習の後始末が容易な髪カット練習用具を提供できるものであるが、練習時にはシートを紐から引っ張り取り、片方の手の指の間に挟んで、もう片方の手にした鋏を動かしてシートに描かれた直線や曲線に沿って切断し、単に鋏の操作を練習するためだけのものである。そのため、目的とするヘアスタイルを作るために、どのような角度で髪を引き出してどこを切断するのかというカット技術の基本を習得できないという課題を有していた。また、鋏の使い方は覚えられるが、髪を引き出すための姿勢やスタンス等、最も重要な体の使い方を習得できないという課題を有していた。

[0005] 本発明は上記従来の課題を解決するもので、指の間に挟んで引き出すときの捻れや水平方向の角度ずれの有無がわかり易いため、カットやワインディングのための正しい姿勢等を自分で判定することができ、さらに捻れや角度ずれがなくなるような正しい姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットやワインディングの基本技術を短時間で習得することができ、また指導者も基本技術を客観的に教えることができ効果的な指導が可能で、さらに切り終えてしまっても新しいものと交換すれば頭部模型は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる理美容技術練習具を提供することを目的とする。

また、本発明は、理美容技術練習具を取り付けて、カットやワインディングの基本技術を練習することができる理美容技術練習用模型を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0006] 上記従来の課題を解決するために本発明の理美容技術練習具及びそれを用いた理美容技術練習用模型は、以下の構成を有している。

本発明の請求項1に記載の理美容技術練習具は、頭部模型に着脱可能に固着さ

れる固着部と、前記固着部に一端が接続された1乃至複数枚の帯状部と、を備えた構成を有している。

この構成により、以下のような作用が得られる。

(1)頭部模型に着脱可能に固着される固着部と、固着部に一端が接続された1乃至複数枚の帯状部と、を備えているので、帯状部が幅広で厚さが薄いため、指の間に帯状部を挟んで引き出すときに捻れや水平方向の角度ずれがあると、帯状部に弛みが生じたりするので、捻れや角度ずれの有無を自分で判定することができ、さらに帯状部の捻れや角度ずれが生じないような正しい姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットやワインディングの基本技術を短時間で習得することができる。

(2)カットやワインディングの基本技術を教える指導者も、帯状部を捻らないように、また水平方向の角度ずれがなく帯状部を引き出すことができるように姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を指導することができ、基本技術を客観的に教えることができる。また、指導を受けた練習生や初心者も、自分のカットやワインディングの動作の適否を客観的に判定することができるため容易に理解でき、カットの基本技術を短時間で習得できる。

(3)頭部模型に着脱可能に固着される固着部を備えているので、帯状部を切り終えてしまったら、理美容技術練習具を新しいものと交換すれば頭部模型は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる。

[0007] ここで、頭部模型としては、毛髪が植設されていないものが用いられる。

固着部としては、面状、帯状、点状等に形成され、頭部模型に着脱可能に形成されたものが用いられる。

固着部を頭部模型に着脱可能にする手段としては、吸盤等による吸引力で吸着するもの、粘着テープ等で貼着するもの等が用いられる。また、凹部や凸部、孔部、螺子部、面状ファスナー、埋設された磁性材料等の被固着部を形成した頭部模型に、嵌着、挿着、螺着、磁着、クリップ等で挟着、貼着によって固着部を着脱するもの等も用いることができる。

[0008] 帯状部としては、軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔、毛髪、人工毛髪等で幅広の薄い帯状に形成されたものが用いられる。毛髪を分けとった束に見立てるためである。

帯状部の幅としては、指と指との間に挟んで引き出す毛髪の束と略等しい2～5cmが好適に用いられる。帯状部の幅が2cmより狭くなるにつれ、引き出した帯状部が捻れているか否かの判断を付け難くなる傾向がみられ、5cmより広くなるにつれ指の間に挟み難くなり実際のカットやワインディングの感触と異なる傾向がみられるため、いずれも好ましくない。

帯状部の長さとしては、鋏による一カット分より長ければ特に制限はないが、5～30cmが好適に用いられる。長さが5cmより短くなるにつれ、指と指の間に挟み引き出す際に捻れているか否かを判断し難くカットやワインディングの練習に適さなくなる傾向がみられるとともに切断可能な回数が少なくなり、30cmより長くなるにつれ、捻れや水平方向の角度ずれが起こり易く練習には適さない傾向がみられるため、いずれも好ましくない。

帯状部は、固着部に1乃至複数枚を接続することができる。複数枚を同じ付け根に密集させてもよいし別々の付け根に一枚ずつ分散させて接続してもよい。

帯状部には、帯状部の長さ方向に略直交して、若しくは斜交して、直線状や曲線状のカット用参考線を表示させることができる。カット用参考線に沿って切断することで鋏の使い方やカットする角度の練習をすることができる。

[0009] 本発明の請求項2に記載の理美容技術練習具は、頭部模型に固定される固定部と、前記固定部に形成された連結部と、前記連結部に着脱可能に形成された取付部と、前記取付部に一端が接続された1乃至複数枚の帯状部と、を備えた構成を有している。

この構成により、以下のような作用が得られる。

(1)連結部に着脱可能に形成された取付部と、取付部に一端が接続された1乃至複数枚の帯状部と、を備えているので、帯状部が幅広で厚さが薄いため、指の間に帯状部を挟んで引き出すときに捻れや水平方向の角度ずれがあると、帯状部に弛みが生じたりするので、捻れや角度ずれの有無を自分で判定することができ、さらに帯状

部の捻れや角度ずれが生じないような正しい姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットやワインディングの基本技術を短時間で習得することができる。

(2)カットやワインディングの基本技術を教える指導者も、帯状部を捻らないように、また水平方向の角度ずれがなく引き出すことができるように姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を指導することができ、基本技術を客観的に教えることができる。また、指導を受けた練習生や初心者も、自分のカットやワインディングの動作の適否を客観的に判定することができるため容易に理解でき、カットやワインディングの基本技術を短時間で習得できる。

(3)連結部に着脱可能に固着される取付部を備えているので、帯状部を切り終えてしまったら、帯状部を新しいものと交換すれば頭部模型や固定部は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる。

[0010] ここで、頭部模型、帯状部としては、請求項1で説明したものと同様なので、説明を省略する。

固定部としては、面状、帯状、点状等に形成され、頭部模型に着脱可能に形成されたもの、若しくは頭部模型に固着されたものが用いられる。

取付部を連結部に着脱可能にする手段としては、吸盤等による減圧や磁力等による吸引力で吸着するもの、粘着テープ等で貼着するもの等が用いられる。また、凹部や凸部、面状ファスナー等の連結部を形成した固定部に、取付部を着脱するもの等も用いることができる。

[0011] 本発明の請求項3に記載の発明は、請求項1又は2に記載の理美容技術練習具であって、前記固定部又は前記取付部に延設又は連結された止着部を備え、前記帯状部が前記止着部に着脱可能に止着された構成を有している。

この構成により、請求項1乃至3の内いずれか1で得られる作用に加え、以下のような作用が得られる。

(1)固定部又は取付部に延設又は連結された止着部に帯状部が着脱可能に止着されているので、帯状部だけを交換することができる。このため、帯状部を切り終えてし

まったら、帯状部だけを新しいものと交換すれば固定部や取付部は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる。

[0012] ここで、止着部としては、帯状部の一端側を挟着するクリップ、一端側が袋状に形成された帯状部の袋状の部分に挿通される棒状部材や板状部材等が用いられる。

[0013] 本発明の請求項4に記載の発明は、請求項1乃至3の内いずれか1に記載の理美容技術練習具であって、前記連結部、前記取付部、前記止着部のいずれかが、前記固着部又は前記固定部に対して回動可能に形成された構成を有している。

この構成により、請求項1又は2で得られる作用に加え、以下のような作用が得られる。

(1)連結部等が固着部や固定部に対して回動可能に形成されているので、帯状部の角度を自由に変えることができ、帯状部の角度に応じて自身の体の位置や姿勢を変化させることを習得できる。

[0014] 本発明の請求項5に記載の発明は、請求項1乃至4の内いずれか1に記載の理美容技術練習具であって、(a)前記固着部又は前記取付部に形成若しくは配設され前記帯状部の一端が固定された硬質の板状部、又は、(b)前記帯状部の一端側に形成され前記止着部に止着された硬質の板状部を備えた構成を有している。

この構成により、請求項1乃至4の内いずれか1で得られる作用に加え、以下のような作用が得られる。

(1)帯状部の一端が固定された、又は、帯状部の一端側に形成された硬質の板状部を有しているので、指の間に帯状部を挟んで引き出したときの帯状部の捻れや角度ずれの有無を、板状部を基準にして目視で容易に判断することができる。

[0015] ここで、板状部としては、帯状部より硬質に形成されているものであれば特に制限なく用いることができ、例えば、硬質の合成樹脂製、硬質ゴム製、金属製、紙等で形成されたものが用いられる。また、帯状部の根元に接着剤を塗布して硬化させたものでもよい。また、クリップ等で形成された止着部を板状部として用いることもできる。また、止着部で帯状部を補強することによって、板状部として用いることもできる。

板状部の長さは1mm～5cm好ましくは1cm～3cmがよい。板状部の長さが1cmより短くなるにつれ板状部を基準にして捻れやずれを目視判定し難くなる傾向がみら

れ、3cmより長くなるにつれ帯状部を引き出す際に板状部も撓んで変形し帯状部の捻れや角度ずれが判定し難くなる傾向がみられる。特に、1mmより短くなるか5cmより長くなると、これらの傾向が著しくなるためいずれも好ましくない。

[0016] 本発明の請求項6に記載の発明は、請求項3乃至5の内いずれか1に記載の理美容技術練習具であって、前記固着部又は前記固定部の表面に第一角度目盛が標示された構成を有している。

この構成により、請求項3乃至5の内いずれか1で得られる作用に加え、以下のような作用が得られる。

(1)固着部又は固定部の表面に第一角度目盛が標示されているので、固着部や固定部に対して回動させた帯状部の角度を読み取り、帯状部の角度と自身の体の位置や姿勢との関係を習得することができる。

[0017] ここで、第一角度目盛としては、帯状部、連結部、取付部の回動中心から放射状に標示された目盛が用いられる。角度を数字で標示することができるが、単に線や点で目盛を示しただけのものでもよい。

[0018] 本発明の請求項7に記載の発明は、請求項1乃至6の内いずれか1に記載の理美容技術練習具であって、前記帯状部に添設された標示板と、前記標示板に標示された第二角度目盛と、を備えた構成を有している。

この構成により、請求項1乃至6の内いずれか1で得られる作用に加え、以下のような作用が得られる。

(1)帯状部に添設された標示板と、標示板に標示された第二角度目盛と、を備えているので、毛髪を引き出す角度を変えたり一定の角度で引き出したりすることを想定した練習を行う際に、どの程度の角度で引き出しているのかを理解することができ、引き出す角度と姿勢やスタンスとの関係を習得することができる。

[0019] ここで、標示板としては、帯状部の幅方向と略直交して固着部や固定部に立設されたもの、連結部や板状部に配設されたもの等で、帯状部の側方に添設されたものが用いられる。固着部や固定部、板状部に対する帯状部の角度を測ることができるようにするためである。

第二角度目盛としては、帯状部の付け根から放射状に標示された目盛が用いられ

る。帯状部が板状部に固定されている場合も、板状部に固定された帯状部の付け根から放射上に標示された目盛が用いられる。角度を数字で標示することができるが、単に線や点で目盛を示しただけのものでもよい。

[0020] 本発明の請求項8に記載の理美容技術練習用模型は、請求項1乃至7の内いずれか1に記載の理美容技術練習具の固着部若しくは固定部が固着若しくは固定される被固着部を備えた頭部模型からなる構成を有している。

この構成により、以下のような作用が得られる。

(1)理美容技術練習具の固着部等が固着等される被固着部を備えているので、理美容技術練習具を取り付けて、カットやワインディングの基本技術を練習することができる。

[0021] ここで、理美容技術練習用模型としては、頭部模型の表面に、理美容技術練習具の固着部や固定部が固着若しくは固定される被固着部が形成されたものが用いられる。また、表面に被固着部が形成された模型本体の背面に、既存の頭部模型等に被着可能に形成された被着部を備えたものを用いることもできる。また、合成樹脂製や金属製等で生え際から後頭部に亘って薄肉状に形成され被固着部を有する頭部模型を用いることもできる。

被固着部としては、凹部や凸部、孔部、螺子部、面状ファスナー、磁性材料等によって形成され、クリップ等による挟着、嵌着、挿着、螺着、磁着、貼着等によって固着部や固定部を着脱可能にしたものを用いることができる。

発明の効果

[0022] 以上のように、本発明の理美容技術練習具及びそれを用いた理美容技術練習用模型によれば、以下のような有利な効果が得られる。

請求項1に記載の発明によれば、

(1)帯状部が幅広のため、指の間に帯状部を挟んで引き出すときの捻れや水平方向の角度ずれの有無を自分で判定することができ、さらに帯状部の捻れや角度ずれが生じないような正しい姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットやワインディングの基本技術を短時間で習得することができる理美容技術練習

具を提供できる。

(2)カットやワインディングの基本技術を教える指導者も、帯状部を捻らないように、また水平方向の角度ずれがなく帯状部を引き出すことができるように姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を指導することができ、基本技術を客観的に教えることができ、また、指導を受けた練習生や初心者も容易に理解でき、カット等の基本技術を短時間で習得できる理美容技術練習具を提供できる。

(3)帯状部を切り終えてしまったら、理美容技術練習具を新しいものと交換すれば頭部模型は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる理美容技術練習具を提供できる。

[0023] 請求項2に記載の発明によれば、

(1)帯状部が幅広のため、指の間に帯状部を挟んで引き出すときの帯状部の捻れや水平方向の角度ずれの有無を自分で判定することができ、さらに帯状部の捻れや角度ずれが生じないような正しい姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットやワインディングの基本技術を短時間で習得することができる理美容技術練習具を提供できる。

(2)カットやワインディングの基本技術を教える指導者も、帯状部を捻らないように、また水平方向の角度ずれがなく引き出すことができるように姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を指導することができ、基本技術を客観的に教えることができ、また、指導を受けた練習生や初心者も容易に理解でき、カット等の基本技術を短時間で習得できる理美容技術練習具を提供できる。

(3)帯状部を切り終えてしまったら、帯状部を新しいものと交換すれば頭部模型や固定部は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる理美容技術練習具を提供できる。

[0024] 請求項3に記載の発明によれば、請求項1又は2の効果に加え、

(1)固定部又は取付部に延設又は連結された止着部に帯状部が着脱可能に止着されているので、帯状部だけを交換することができるため、帯状部を切り終えてしまったら、帯状部だけを新しいものと交換すれば固定部や取付部は繰り返し使用することが

でき、ランニングコストを抑えることができる理美容技術練習具を提供できる。

[0025] 請求項4に記載の発明によれば、請求項1乃至3の内いずれか1の効果に加え、(1)連結部等が固着部や固定部に対して回動可能に形成されているので、帯状部の角度に応じて、自身の体の位置や姿勢を変化させることを習得できる理美容技術練習具を提供できる。

[0026] 請求項5に記載の発明によれば、請求項1乃至4の内いずれか1の効果に加え、(1)帯状部の一端が固定された、又は、帯状部の一端側に形成された硬質の板状部を有しているので、指の間に帯状部を挟んで引き出したときの帯状部の捻れや角度ずれの有無を、板状部を基準にして目視で容易に判断することができる理美容技術練習具を提供できる。

[0027] 請求項6に記載の発明によれば、請求項3乃至5の内いずれか1の効果に加え、(1)固着部又は固定部の表面に第一角度目盛が標示されているので、固着部や固定部に対して回動させた帯状部の角度を読み取り、帯状部の角度と自身の体の位置や姿勢との関係を習得することができる理美容技術練習具を提供できる。

[0028] 請求項7に記載の発明によれば、請求項1乃至6の内いずれか1の効果に加え、(1)帯状部に添設された標示板と、標示板に標示された第二角度目盛と、を備えているので、毛髪を引き出す角度を変えたり一定の角度で引き出したりすることを想定した練習を行う際に、どの程度の角度で引き出しているのかを理解することができ、引き出す角度と姿勢やスタンスとの関係を習得することができる理美容技術練習具を提供できる。

[0029] 請求項8に記載の発明によれば、(1)理美容技術練習具を取り付けて、カットやワインディングの基本技術を練習することができる理美容技術練習用模型を提供できる。

図面の簡単な説明

[0030] [図1](a)実施の形態1における理美容技術練習具の斜視図 (b)理美容技術練習具を頭部模型に固着した状態を示す斜視図

[図2](a)実施の形態2における理美容技術練習具の斜視図 (b)理美容技術練習具を固着した理美容技術練習用模型を示す側面図 (c)第一角度目盛の標示板を

示す平面図 (d)変形例の理美容技術練習具の要部側面図

[図3]実施の形態3における理美容技術練習具の斜視図

[図4]実施の形態4における理美容技術練習具の斜視図

[図5](a)実施の形態5における理美容技術練習具の斜視図 (b)実施の形態5における理美容技術練習具の側面図

[図6](a)実施の形態6における理美容技術練習具の斜視図 (b)実施の形態6における理美容技術練習具の正面図

[図7](a)実施の形態7における理美容技術練習具を頭部模型に装着した状態を示す斜視図 (b)理美容技術練習具の要部断面図

[図8](a)実施の形態8における理美容技術練習用模型の側面図 (b)実施の形態8における理美容技術練習具の要部側面図

[図9](a)実施の形態9における理美容技術練習用模型の側面図 (b)実施の形態9における理美容技術練習用模型に実施の形態2における他の変形例の理美容技術練習具を固着した状態を示す要部断面図

符号の説明

[0031] 1, 11, 11´, 11a, 21, 31, 41, 51, 61, 71 理美容技術練習具

2, 22, 62 固定部

3, 23, 63, 73 連結部

4, 24, 67 第一角度目盛

5 嵌合凹部

6, 14b, 27, 66 取付部

7, 15, 43 板状部

8, 14, 14a, 26, 33, 44, 56, 63, 65, 76 帯状部

9 カット用参考線

12, 12a, 32, 42, 52, 62, 72 固着部

12b 軸部

12c 鍔部

12d 螺子部

12e 締結部材

13, 13a, 75 止着部

13b, 25, 64 抜け防止部

13c 挟持部

53 標示板

54 切れ目部

55 第二角度目盛

74 嵌合部

100, 104, 109 頭部模型

101 基準線

102, 110 理美容技術練習用模型

103, 111 模型本体

104 筒部

105, 112 被固着部

106 標示板

107 嵌挿孔部

108 第一角度目盛

120 理美容技術練習用模型

121 模型本体

122 基部

123 支持ヘッド嵌挿孔部

124 被固着部

130 取付台

131 支持ヘッド

発明を実施するための最良の形態

[0032] 以下、本発明を実施するための最良の形態を、図面を参照しながら説明する。

(実施の形態1)

図1(a)は本発明の実施の形態1における理美容技術練習具の斜視図であり、(b)

は理美容技術練習具を頭部模型に固着した状態を示す斜視図である。

図中、1は実施の形態1における理美容技術練習具、2は吸盤等の略円形の面状体で形成された固定部、3は固定部2の表面の略中央に突設された連結部、4は固定部2の表面の略半分に連結部3を中心に等間隔の放射状に標示された第一角度目盛、5は連結部3の頂部に略半球状の凹状に形成された嵌合凹部、6は合成樹脂製や金属製等で形成され連結部3の嵌合凹部5に着脱可能に嵌着された略球状の取付部、7は硬質の合成樹脂製等で形成され取付部6に延設された硬質の板状部、8は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄いシート状に形成され一端が板状部7に固定され取付部6に接続された帯状部、9は帯状部8の長さ方向に略直交して若しくは斜交して標示された直線状のカット用参考線、100は毛髪が植設されていない頭部模型、101はネープからトップに亘って水平方向に所定の間隔で区画され頭部模型100に標示された基準線である。

なお、本実施の形態においては、取付部6の大きさは連結部3の嵌合凹部5の大きさと略同一に形成されており、取付部6は連結部3の嵌合凹部5に固く嵌められている。そのため、板状部7を摘んで動かせば取付部6を回動させることができるが、帯状部8を挟んで引き出しても取付部6には力が伝達され難いので、取付部6を回動させることができないように形成されている。また、帯状部8の幅は2～5cmに、長さは5～30cmに形成されている。また、板状部7の長さは1mm～5cmに形成されている。

[0033] 以上のように構成された本発明の実施の形態1における理美容技術練習具について、以下その使用方法を説明する。

理美容技術の練習を行う練習生等は、基準線101を参考にしながら頭部模型100に理美容技術練習具1の固定部2を吸着、貼着等によって固定した後、板状部7を摘んで固定部2に対して垂設させるよう調整する。始めに、指と指の間で帯状部8を挟んで、取り分けた毛髪の束を水平方向に対して所定の角度に引き出す動作を練習するのであるが、このときに帯状部8が捻れたり弛んだり水平方向に対して引き出す角度がずれないように姿勢やスタンスを整える。これにより、正しいカットのための姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を習得することができる。次に、指の間からはみ出た帯状部8の先端を、カット用参考線9に沿って鋏で切断することで、鋏の使い方を

習得することができる。

また、帯状部8を板状部7に対して真っ直ぐ引き上げる場合、帯状部8を板状部7に対して斜めに引き上げる場合について、帯状部8が捻れたり弛んだりしないように姿勢やスタンスを整えることで、グラデーション、セイムレイヤー、ハイレイヤー等の各々の場合の正しいカットのための姿勢やスタンスを習得することができる。

また、板状部7を摘んで第一角度目盛4を参考にしながら取付部6を連結部3に対し水平方向に回動させた後、同様に練習することによって、回動させた帯状部8の角度に応じて、自身の体の位置や姿勢を変化させることを習得できる。

なお、帯状部8を使って、パーマネント用ロッドに巻き付ける練習をすることで、ワインディングの練習を行うこともできる。

[0034] 以上のように、本発明の実施の形態1における理美容技術練習具は構成されているので、以下のような作用が得られる。

(1)連結部3に着脱可能に形成された取付部6と、板状部7を介して取付部6に一端が接続された帯状部8と、を備えているので、帯状部8が薄いシート状で幅広のため、指の間に帯状部8を挟んで引き出すときの帯状部8の捻れや水平方向に対する角度ずれの有無がわかり易いため、帯状部8の捻れやずれを自分で判定することができ、さらに帯状部8の捻れやずれがなくなるような正しい姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットの基本技術を短時間で習得することができる。

(2)カットの基本技術を教える指導者も、捻れやずれがないように帯状部8を引き出すための姿勢やスタンス等を指導することができ、基本技術を客観的に教えることができる。また、指導を受けた練習生や初心者も、自分のカットの動作の適否を客観的に判定することができるため容易に理解でき、カットの基本技術を短時間で習得できる。

(3)連結部3に着脱可能に固着される取付部6を備えているので、帯状部8を切り終えてしまったら、帯状部8を新しいものと交換すれば頭部模型100や固定部2は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる。

(4)帯状部8にカット用参考線9が表示されているので、カット用参考線9に沿って切

断することで鋏の使い方やカットする角度の練習をすることができる。

(5)取付部6が固定部2の連結部3に対して回動可能に形成されているので、基準線101に対して帯状部8を直交方向や斜交方向に配することができ、帯状部8の角度に応じて自身の体の位置や姿勢を変化させることを習得でき、セクションごとに別々の切り方をする場合の基本動作を習得できる。

(6)固定部2の表面に第一角度目盛4が標示されているので、回動させた帯状部8の角度を読み取り、帯状部8の角度と自身の体の位置や姿勢等との関係を習得することができる。

(7)帯状部8の一端が硬質の板状部7に固定されているので、指の間に帯状部8を挟んで引き出したときの帯状部8の捻れや角度ずれの有無を、板状部7を基準にして目視で容易に判断することができる。

(8)帯状部8の幅が2～5cmに形成されているので、指と指との間に挟んで引き出し易く、また引き出した帯状部が捻れているか否かの判断が付け易い。また、帯状部8の長さが5～30cmに形成されているので、練習生等が取り扱い易く、また引き出した帯状部8が捻れているか否かを判断し易い。また、板状部7の長さが1mm～5cmに形成されているので、板状部7を基準にして捻れやずれを目視判定し易い。

[0035] ここで、本実施の形態においては、帯状部8が板状部7に一枚固定された場合について説明したが、複数枚を固定する場合もある。この場合も同様の作用が得られるとともに、重ねた帯状部8に厚みができるので、毛髪の束の厚みに近い感触が得られるという作用が得られる。

また、固定部2が頭部模型100に貼着、吸着等によって着脱可能に形成された場合について説明したが、接着等によって完全に固着してしまう場合もある。この場合も、取付部6が連結部3に着脱可能に形成されているので、同様の作用が得られる。

また、帯状部8が、軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄いシート状で形成された場合について説明したが、複数本の毛髪や合成樹脂製の糸状物の一端部を板状部7に固着して、薄い束のような帯状に形成したものを用いる場合もある。この場合も同様の作用が得られる。

[0036] (実施の形態2)

図2(a)は本発明の実施の形態2における理美容技術練習具の斜視図であり、(b)は理美容技術練習具を固着した理美容技術練習用模型を示す側面図であり、(c)は第一角度目盛の標示板を示す平面図であり、(d)は変形例の理美容技術練習具の要部側面図である。

図2(a)において、11は実施の形態2における理美容技術練習具、12は略球面状に形成された固着部、13は硬質の合成樹脂製や金属製等で形成され固着部12に延設されたクリップからなる止着部、14は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成された帯状部、15は合成樹脂製、硬質ゴム製、金属製、紙等で帯状部14の一端側に形成され止着部13で挟着された板状部である。

図2(b),(c)において、102は実施の形態2における頭部模型からなる理美容技術練習用模型、103は理美容技術練習用模型102の頭部模型の模型本体、104は模型本体103のフロント,トップ,サイド,ネープ等のセクションごとに形成された複数の孔部に挿着され先端側が頭部表面から突出した筒部、105は筒部104内に形成され理美容技術練習具11の固着部12が嵌着される嵌合凹部からなる被固着部、106は円盤状に形成された第一角度目盛の標示板、107は標示板106の略中心に形成された筒部104が嵌挿される嵌挿孔部、108は標示板106の縁部に形成された第一角度目盛である。

図2(d)において、11aは変形例の理美容技術練習具、13aは合成樹脂製等で略球面状に形成された固着部12から略L字状に延設された硬質の板状部材からなる止着部、13bは止着部13aの固着部12側の縁辺にローレット切りや凹凸等で形成された抜け防止部、13cは止着部13aの基部から延設され抜け防止部13bと微小間隔をあけて対向する挟持部、14aは軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成された帯状部、14bは帯状部14aの一端側を折り返して端部を溶着、接着等で帯状部14aに固着して形成され止着部13aが嵌挿される取付部である。

[0037] 以上のように構成された本発明の実施の形態2における理美容技術練習具11は、クリップからなる止着部13に帯状部14に形成された板状部15を挟持させて止着した後、理美容技術練習用模型102のカット等の練習をしたいセクションに形成された被

固着部105に、理美容技術練習具11の固着部12を嵌着させることで固着させることができる。また、理美容技術練習具11を被固着部105に嵌着させる際に、標示板106の嵌挿孔部107に筒部104を嵌挿して、模型本体103の表面の被固着部105の周囲に第一角度目盛を標示させることができる。

別のセクションの練習を行う場合には、被固着部105から理美容技術練習具11を抜いた後、表示板106を取り外して、別のセクションに形成された被固着部105に標示板106及び理美容技術練習具11を配置する。カットの練習によって帯状部14が短くなってしまったら、帯状部14を新しいものと交換することができる。

[0038] 変形例の理美容技術練習具11aにおいても、帯状部14aに形成された取付部14bに止着部13aを嵌挿させて止着した後、理美容技術練習用模型102のカット等の練習をしたいセクションに形成された被固着部105に、理美容技術練習具11の固着部12を嵌着させることで固着させることができ、標示板106を用いて被固着部105の周囲に第一角度目盛を標示させることができる。止着部13aには抜け防止部13bが形成されており、また止着部13aに嵌挿された取付部14bが挟持部13cで挟持されるので、止着部13aに止着された帯状部14aが練習中に外れたり、取付部14bが練習中に止着部13aの周りを回動したりするのを防止でき、板状部材からなる止着部13aで取付部14bが補強されて板状部を形成することができる。

[0039] 以上のように構成された実施の形態2における理美容技術練習具によれば、実施の形態1に記載した作用に加え、以下のような作用が得られる。

(1)帯状部14，14aが止着部13，13aに着脱自在に形成されているので、帯状部14，14aがカットの練習で短くなってしまったら、帯状部14，14aだけを新しいものと交換できるので、ランニングコストを低減させることができる。

(2)略球面状に形成された固着部12が筒部104の被固着部105内を回動可能なので、回動角度に応じて練習生等が体の位置や姿勢を変化させることを習得でき、セクションごとに別々の切り方をする場合の基本動作を習得できる。

(3)理美容技術練習具11aの板状部材で形成された止着部13aに、帯状部14aの取付部14bが挿通されて板状部が形成されるので、引き出した帯状部14aの捻れや角度ずれの有無を目視で容易に判断することができる。

[0040] また、以上のように構成された実施の形態2における理美容技術練習用模型によれば、以下のような作用が得られる。

(1)セクションごとに模型本体103に複数の被固着部105が形成されているので、理美容技術練習具11，11aを様々なセクションの被固着部105に装着して、セクションごとのカットやワインディングの場合の姿勢やスタンス等を練習できる。

(2)筒部104に標示板106を装着することで被固着部105の周囲に第一角度目盛を標示させることができるので、帯状部14，14aの角度と自身の体の位置や姿勢との関係を習得することができる。

[0041] ここで、本実施の形態においては、被固着部105が形成された模型本体103に、理美容技術練習具11，11aの固着部12を嵌着させる場合について説明したが、固着部12をピン等で形成すれば、被固着部105が形成されていない模型本体103であっても、ピン等を模型本体103の表面に刺衝し固着させることができ、同様の作用が得られる。

また、模型本体103に凹部からなる被固着部105が形成された場合について説明したが、被固着部105を凸状に形成し固着部12を凹状に形成して、着脱可能にすることもできる。この場合も同様の作用が得られる。

また、理美容技術練習具11，11aの固着部12を、実施の形態1で説明した理美容技術練習具1の固定部2の連結部3の嵌合凹部5に嵌着させることもでき、この場合も同様の作用が得られる。

また、理美容技術練習用模型102の模型本体103が頭部模型と一体に形成された場合について説明したが、模型本体103を別に合成樹脂製やゴム製等でマスク状に成形して、実施の形態1で説明した頭部模型100に被着して用いるようにする場合もある。この場合は、既存の頭部模型を流用できるという作用が得られる。

[0042] (実施の形態3)

図3は本発明の実施の形態3における理美容技術練習具の斜視図である。

図中、21は実施の形態3における理美容技術練習具、22は略半円形の面状体で形成された固定部、23は略L字状に形成され一端が固定部22に回動可能に枢設された連結部、24は固定部22の表面に連結部23を中心に等間隔の放射状に標示さ

れた第一角度目盛、25は連結部23の先端に鉤状に形成された抜け防止部、26は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成された帯状部、27は帯状部26の一端側を折り返して端部を溶着、接着等で帯状部26に固着して形成され連結部23が挿通された取付部である。

なお、本実施の形態においては、連結部23は固定部22に嵌合されている。そのため、連結部23を摘んで動かせば回動させることができるが、帯状部26を挟んで引き出しても連結部23に力が伝達され難いため、連結部23を回動させることができないように形成されている。

[0043] 以上のように構成された本発明の実施の形態3における理美容技術練習具21は、理美容技術の練習を行う練習生等が、図示しない頭部模型に理美容技術練習具21の固定部22を吸着、貼着等によって固定した後、連結部23を水平方向に回動させて所定の角度に設定する。次いで、実施の形態1で説明したのと同様にして、理美容技術の練習を行うことができる。

[0044] 以上のように構成された実施の形態3における理美容技術練習具によれば、実施の形態1に記載した作用に加え、以下のような作用が得られる。

(1)帯状部26の一端に取付部27が形成されており、消耗品である帯状部26の構成が単純なので、ランニングコストを著しく低減させることができる。

[0045] (実施の形態4)

図4は本発明の実施の形態4における理美容技術練習具の斜視図である。

図中、31は実施の形態4における理美容技術練習具、32は軟質の合成樹脂製、ゴム製等で略円形の面状に形成された固着部、33は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成され一端が同じ付け根で固着部32に接続された複数の帯状部である。

[0046] 以上のように構成された本発明の実施の形態4における理美容技術練習具31は、実施の形態1で説明したものと同様の図示しない頭部模型に、固着部32を貼着等で着脱自在に固着することができる。

なお、実施の形態4における理美容技術練習具の使用方法は、実施の形態1で説明したものと同様なので、説明を省略する。

[0047] 以上のように構成された実施の形態4における理美容技術練習具によれば、実施の形態1に記載した作用に加え、以下のような作用が得られる。

(1)複数の帯状部33が固着部32に接続されているので、重ねた帯状部33に厚みができるので、毛髪の束の厚みに近い感触が得られる。

(2)構成が単純なので少ない材料コストで量産することができる。

[0048] (実施の形態5)

図5(a)は本発明の実施の形態5における理美容技術練習具の斜視図であり、(b)は実施の形態5における理美容技術練習具の側面図である。

図中、41は実施の形態5における理美容技術練習具、42は軟質の合成樹脂製、ゴム製等で略円形の面状に形成された固着部、43は硬質の合成樹脂製等で形成され固着部42に対して略垂直に突設された硬質の板状部、44は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成され一端が板状部43に固定された帯状部である。

[0049] 以上のように構成された本発明の実施の形態5における理美容技術練習具41は、実施の形態1で説明したものと同様の図示しない頭部模型に、固着部42を貼着等で着脱自在に固着することができる。

また、実施の形態5における理美容技術練習具の使用方法は、実施の形態1で説明したものと同様であるが、帯状部44を板状部43に対して真っ直ぐ引き上げる場合、帯状部44を板状部43に対して斜めに引き上げる場合(図5(b)参照)について、帯状部44が捻れたり弛んだり水平方向に対する角度ずれが生じないように姿勢やスタンス等を整えることで、グラデーション、セイムレイヤー、ハイレイヤー等の各々の場合の正しいカットのための姿勢やスタンス等を習得することができる。

[0050] 以上のように構成された実施の形態5における理美容技術練習具によれば、実施の形態1に記載した作用に加え、以下のような作用が得られる。

(1)板状部43が固着部42に垂設されているので、引き出した帯状部44の捻れや角度ずれの有無を、板状部43を基準にして練習者自身が目視で容易に判断することができ、練習効率を高めることができる。

[0051] (実施の形態6)

図6(a)は本発明の実施の形態6における理美容技術練習具の斜視図であり、(b)は実施の形態6における理美容技術練習具の正面図である。

図中、51は実施の形態6における理美容技術練習具、52は可撓性を有する軟質の合成樹脂製、ゴム製等で略半円状の面状体で形成された固着部、53は固着部52の一辺に立設された略半円状の標示板、54は固着部52と標示板53の境界の両端から形成された切れ目部、55は標示板53の下端から等間隔の放射状に標示された第二角度目盛である。本実施の形態においては、第二角度目盛55は15°刻みで標示されており、45°、90°の数値も標示されている。56は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成され一端が第二角度目盛55の放射中心位置で固着部52に接続された帯状部である。

[0052] 以上のように構成された本発明の実施の形態6における理美容技術練習具51は、図示しない頭部模型に、固着部52を貼着等で着脱自在に固着することができる。

また、実施の形態6における理美容技術練習具の使用方法は、実施の形態1で説明したものと同様であるが、帯状部56を引き上げる場合、図6(b)のように、固着部52に対する帯状部56の角度を第二角度目盛55で確認することができ、各角度で引き上げた場合の姿勢やスタンス等を整えることで、グラデーション、セイムレイヤー、ハイレイヤー等の各々の場合の正しいカットのための姿勢やスタンス等を習得することができる。

[0053] 以上のように構成された実施の形態6における理美容技術練習具によれば、実施の形態1に記載した作用に加え、以下のような作用が得られる。

(1)固着部52に立設され帯状部56の側方に添設された標示板53と、標示板53に標示された第二角度目盛55と、を備えているので、毛髪を引き出す角度を変えたり一定の角度で引き出したりすることを想定した練習を行う際に、どの程度の角度で引き出しているのかを理解することができ、引き出す角度と姿勢やスタンスとの関係を習得することができる。

(2)固着部52と標示板53の境界の両端から形成された切れ目部54を備えているので、標示板53で拘束されることなく、湾曲した頭部模型の表面に沿わせて固着部52を貼着させることができる。

[0054] ここで、本実施の形態においては、固着部52に標示板53が立設された場合について説明したが、実施の形態3で説明した理美容技術練習具21に標示板53を設ける場合には、連結部23に標示板53を90°の位置で固着することができ、これにより標示板53を帯状部26の側方に添設することができる。また、実施の形態1で説明した理美容技術練習具1に標示板53を設ける場合には、板状部7の縁に標示板を90°の位置で固着することができ、これにより標示板53を帯状部8の側方に添設することができる。

[0055] (実施の形態7)

図7(a)は本発明の実施の形態7における理美容技術練習具を頭部模型に装着した状態を示す斜視図であり、図7(b)は理美容技術練習具の要部断面図である。

図中、61は実施の形態7における理美容技術練習具、62は可撓性を有する軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製等で帯状に形成され頭部模型109に貼着等で固定された固定部、63は略L字状に形成され適当な間隔をあけて一端が固定部62に回動可能に枢設された連結部、64は固定部62と略平行に配設された他端側の連結部63に形成された複数の凸部からなる抜け防止部、65は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成された帯状部、66は帯状部65の一端側に形成され連結部63が挿通された筒状の取付部、67は固定部62の表面に連結部63を中心に等間隔の放射状に標示された第一角度目盛である。

[0056] 以上のように構成された実施の形態7における理美容技術練習具によれば、実施の形態1、実施の形態3に記載した作用に加え、以下のような作用が得られる。

(1)帯状に形成された固定部62に帯状部65が適当な間隔をあけて複数枚固定されているので、一つの理美容技術練習具61を頭部模型109に装着することで帯状部65を複数固着でき取扱性に優れる。

(2)固定部62の種々の部位に帯状部65が設けられているので、一度に種々の部位のカット等の練習をすることによって総合練習をすることができる。

[0057] (実施の形態8)

図8(a)は本発明の実施の形態8における理美容技術練習用模型の側面図であり、(b)は本発明の実施の形態8における理美容技術練習具の要部側面図である。

図8(a)において、110は実施の形態8における頭部模型からなる理美容技術練習用模型、111は理美容技術練習用模型110の頭部模型の模型本体、112は模型本体111のフロント，トップ，サイド，ネープ等のセクションごとに適当な間隔をあけて垂設された複数の突条部からなる被固着部である。

図8(b)において、71は実施の形態8における理美容技術練習具、72は理美容技術練習用模型110に立設された被固着部112を挟持して固着されるクリップからなる固着部、73は固着部72に凸起状に形成された連結部、74は連結部73に形成された凹部73aに嵌合し回動可能に形成された略球面状の嵌合部、75は嵌合部74に延設されたクリップからなり固着部72に連結された止着部、76は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成され止着部75で挟持され止着された帯状部である。

[0058] 以上のように構成された本発明の実施の形態8における理美容技術練習具71は、クリップからなる止着部75に帯状部76を挟持させて止着した後、理美容技術練習用模型110のカット等の練習をしたいセクションに形成された被固着部112を、理美容技術練習具71の固着部72で挟持することで固着させることができる。また、嵌合部74を使って固着部72に対して止着部75を回動させることで、帯状部76の水平方向の角度を変えることができる。

別のセクションの練習を行う場合には、被固着部112から理美容技術練習具71の固着部72を取り外して、別のセクションに形成された被固着部112に理美容技術練習具71を配置する。カットの練習によって帯状部76が短くなってしまったら、止着部75のクリップに新しい帯状部76を止着すればよい。

[0059] 以上のように構成された実施の形態8における理美容技術練習具によれば、実施の形態1に記載した作用に加え、以下のような作用が得られる。

(1)帯状部76が止着部75に着脱自在に形成されているので、帯状部76がカットの練習で短くなってしまったら、帯状部76だけを新しいものと交換できるので、ランニングコストを低減させることができる。

(2)止着部75が固着部72に対して回動可能に形成されているので、帯状部76の水平方向の角度を変えることができ、帯状部76に角度に応じて自身の体の位置や姿

勢を変化させることを習得でき、セクションごとに別々の切り方をする場合の基本動作を習得できる。

(3)帯状部76の一端側が幅広の止着部75で挟持され止着されているので、止着部75を基準にして、引き出した帯状部76の捻れや角度ずれの有無を目視で容易に判断することができる。

[0060] また、以上のように構成された実施の形態8における理美容技術練習用模型によれば、以下のような作用が得られる。

(1)セクションごとに模型本体111に複数の被固着部112が形成されているので、理美容技術練習具71を様々なセクションの被固着部112に装着して、セクションごとのカットやワインディングの場合の姿勢やスタンス等を練習できる。

[0061] ここで、本実施の形態においては、理美容技術練習用模型110の模型本体111が頭部模型と一体に形成された場合について説明したが、模型本体111を合成樹脂製やゴム製等で成形して、実施の形態1で説明した頭部模型100に被着して用いるようにする場合もある。この場合は、既存の頭部模型100を流用できるという作用が得られる。

[0062] 図9(a)は本発明の実施の形態9における理美容技術練習用模型の側面図であり、(b)は本発明の実施の形態9における理美容技術練習用模型に実施の形態2における他の変形例の理美容技術練習具を固着した状態を示す要部断面図である。なお、実施の形態2で説明したものと同様のものは、同じ符号を付して説明を省略する。

図9(a)において、120は実施の形態9における頭部模型からなる理美容技術練習用模型、121は薄肉の合成樹脂製や金属製等で生え際から後頭部，首部に亘って略椀状に形成された頭部模型の模型本体、122は模型本体121の首部に延設された基部、123は基部122に形成され後述する取付台130の支持ヘッド131が嵌挿される支持ヘッド嵌挿孔部、124は模型本体121に形成された孔部からなる被固着部、130は既存の練習用ウィッグ等を取り付けることもできる既存の取付台、131は取付台130に立設された支持ヘッドである。

図9(b)において、11´は実施の形態2における他の変形例の理美容技術練習具、

12aは理美容技術練習用模型120の被固着部124に着脱自在に固着される理美容技術練習具11´の固着部、12bは一端が止着部13に固着され他端側が被固着部124に挿通された軸部、12cは軸部12bに被固着部124の孔径よりも大きな外径で形成された鍔部、12dは軸部12bの外周面に螺設された螺子部、12eは螺子部12dに螺着される締結部材である。

[0063] 以上のように構成された実施の形態9における理美容技術練習用模型120は、理美容技術練習具11´の固着部12aの軸部12bが被固着部124に挿通され、軸部12bの螺子部12dに締結部材12eが螺着されるので、理美容技術練習具11´を着脱自在に固着することができる。帯状部15の水平方向における角度を変える場合は、締結部材12eを緩めた後、軸部12bを回動させて帯状部15の角度を変え、締結部材12eを締結し直すことで帯状部15の角度を変えることができる。

[0064] 以上のように、実施の形態9における理美容技術練習用模型120は構成されているので、以下のような作用が得られる。

(1)理美容技術練習用模型120の模型本体121は、生え際から後頭部に亘る略椀状の薄肉に形成されているので、理美容技術練習用模型120の背面側から手を入れて、理美容技術練習具11´を締結部材12eで固定することができ自在性に優れる。

(2)理美容技術練習用模型120の模型本体121は、生え際から後頭部に亘る略椀状の薄肉に形成されているので、成形性に優れるとともに軽量で容易に持ち運ぶことができる。

[0065] なお、本実施の形態においては、理美容技術練習用模型120に孔部からなる被固着部124が形成された場合について説明したが、孔部に代えて、実施の形態2で説明した凹部からなる被固着部や実施の形態8で説明した凸部からなる被固着部が形成されたものを用いる場合もある。また、理美容技術練習用模型120の孔部からなる被固着部124に、理美容技術練習具11´の軸部12bを挿通し締結部材12eで締結固定する場合について説明したが、締結部材12eに代えて、理美容技術練習用模型120の背面側からクリップ等で軸部12bを挟持して固定する場合もある。また、理美容技術練習具11´の固着部12aに代えて、実施の形態2で説明した理美容技術

練習具11の略球面状に形成された固着部12を挿着して固定する場合もある。また、理美容技術練習用模型120の孔部からなる被固着部124の内周面に螺子部を形成し、理美容技術練習具の固着部や固定部に該螺子部と螺合する螺子部を形成したものを用いる場合もある。以上のような場合にも、実施の形態9で説明した理美容技術練習用模型と同様の作用が得られる。

産業上の利用可能性

[0066] 本発明は、髪のカットやワインディングの練習を行うときに用いる理美容技術練習具及び理美容技術練習用模型に関し、指の間に挟んで引き出すときの捻れや角度ずれの有無がわかり易いため、カットやワインディングのための正しい姿勢等を自分で判定することができ、さらに捻れや角度ずれがなくなるような正しい姿勢やスタンスを習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットやワインディングの基本技術を短時間で習得することができ、また指導者も基本技術を客観的に教えることができ効果的な指導が可能で、さらに切り終えてしまっても新しいものと交換すれば頭部模型は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる理美容技術練習具を提供することができ、また理美容技術練習具を取り付けて、カットやワインディングの基本技術を練習することができる理美容技術練習用模型を提供することができる。

請求の範囲

[1] 頭部模型に着脱可能に固着される固着部と、前記固着部に一端が接続された1乃至複数枚の帯状部と、を備えていることを特徴とする理美容技術練習具。

[2] 頭部模型に固定される固定部と、前記固定部に形成された連結部と、前記連結部に着脱可能に形成された取付部と、前記取付部に一端が接続された1乃至複数枚の帯状部と、を備えていることを特徴とする理美容技術練習具。

[3] 前記固着部又は前記取付部に延設又は連結された止着部を備え、前記帯状部が前記止着部に着脱可能に止着されていることを特徴とする請求項1又は2に記載の理美容技術練習具。

[4] 前記連結部、前記取付部、前記止着部のいずれかが、前記固着部又は前記固定部に対して回動可能に形成されていることを特徴とする請求項1乃至3の内いずれか1に記載の理美容技術練習具。

[5] (a)前記固着部又は前記取付部に設けられ前記帯状部の一端が固定された硬質の板状部、又は、(b)前記帯状部の一端側に形成され前記止着部に止着された硬質の板状部を備えていることを特徴とする請求項1乃至4の内いずれか1に記載の理美容技術練習具。

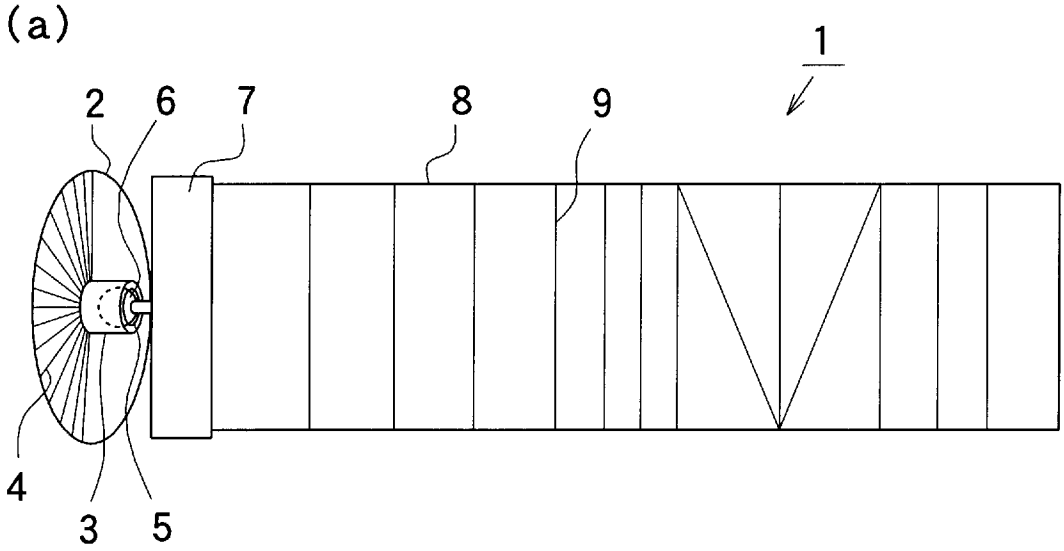
[6] 前記固着部又は前記固定部の表面に第一角度目盛が標示されていることを特徴とする請求項3乃至5の内いずれか1に記載の理美容技術練習具。

[7] 前記帯状部に添設された標示板と、前記標示板に標示された第二角度目盛と、を備えていることを特徴とする請求項1乃至6の内いずれか1に記載の理美容技術練習具。

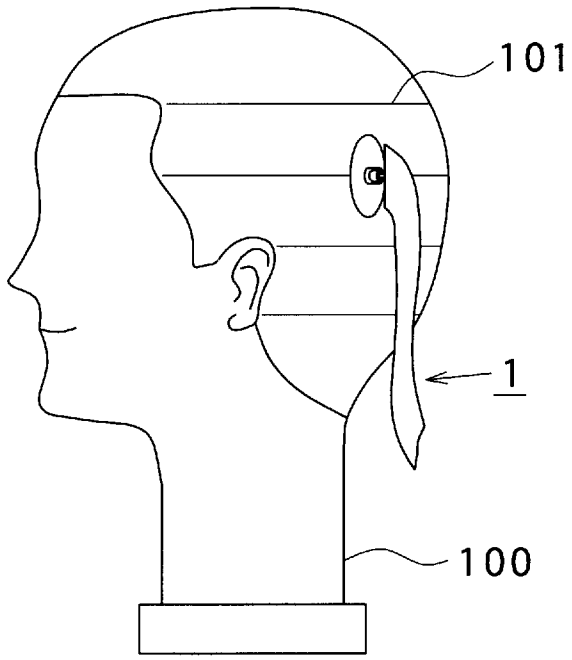
[8] 請求項1乃至7の内いずれか1に記載の理美容技術練習具の固着部若しくは固定部が固着若しくは固定される被固着部を備えていることを特徴とする頭部模型からなる理美容技術練習用模型。

[図1]

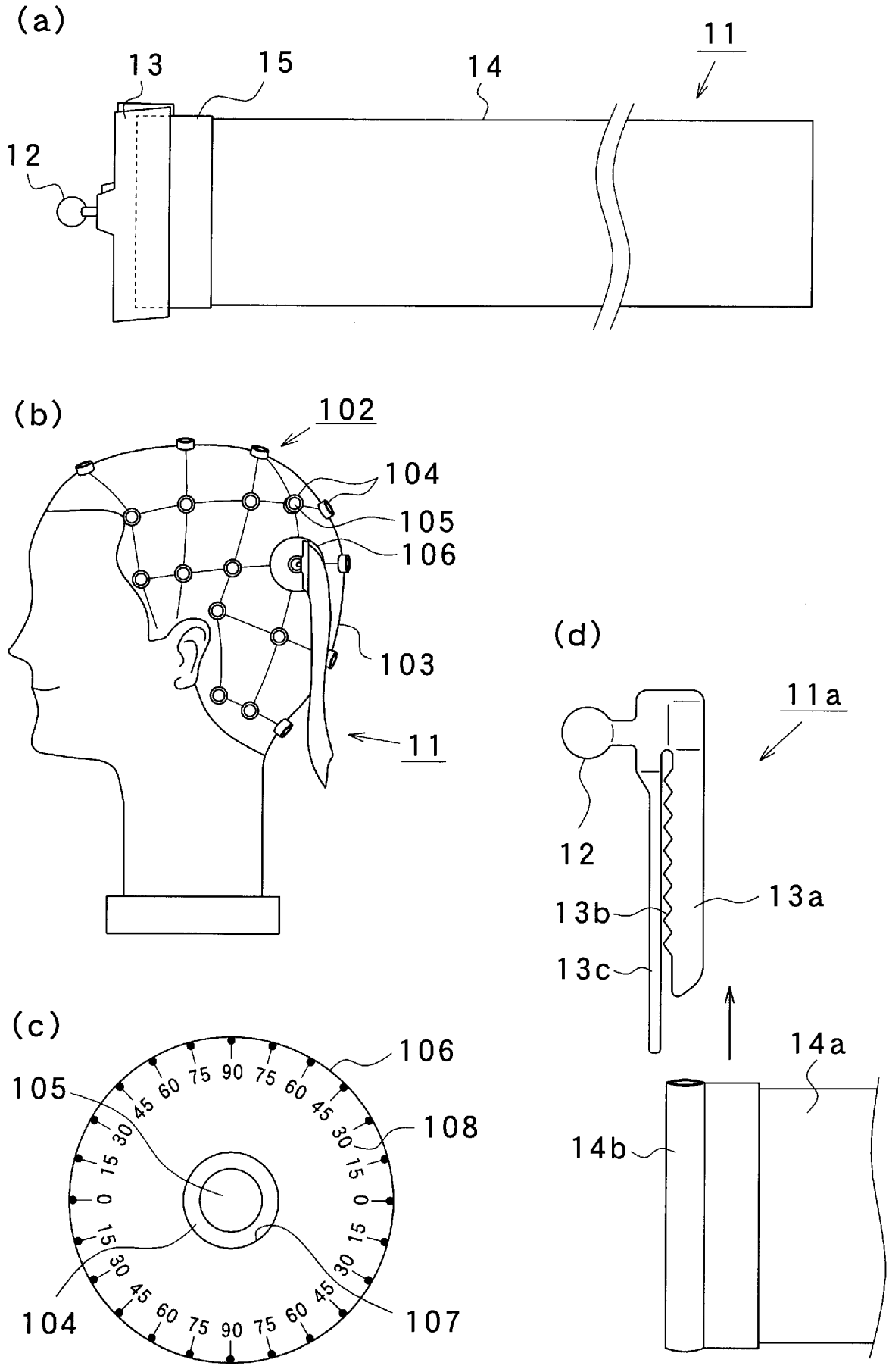
(a)



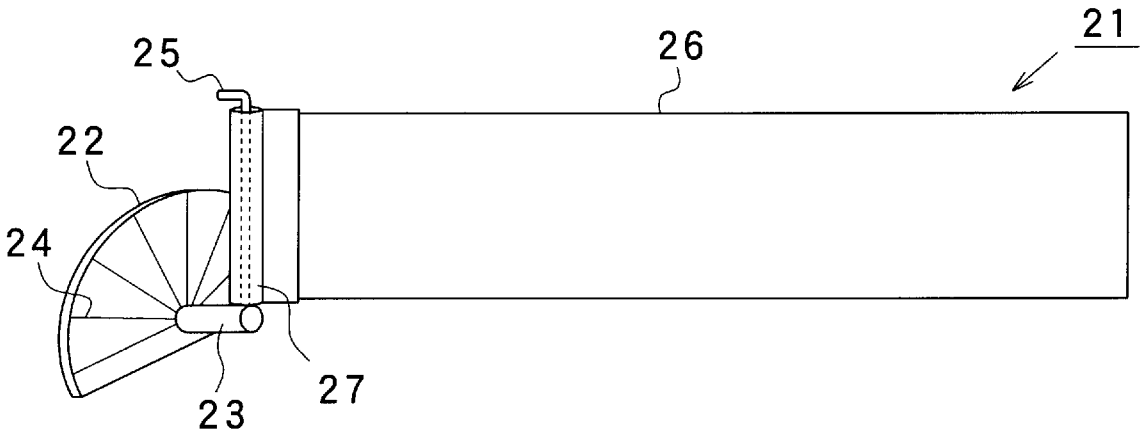
(b)



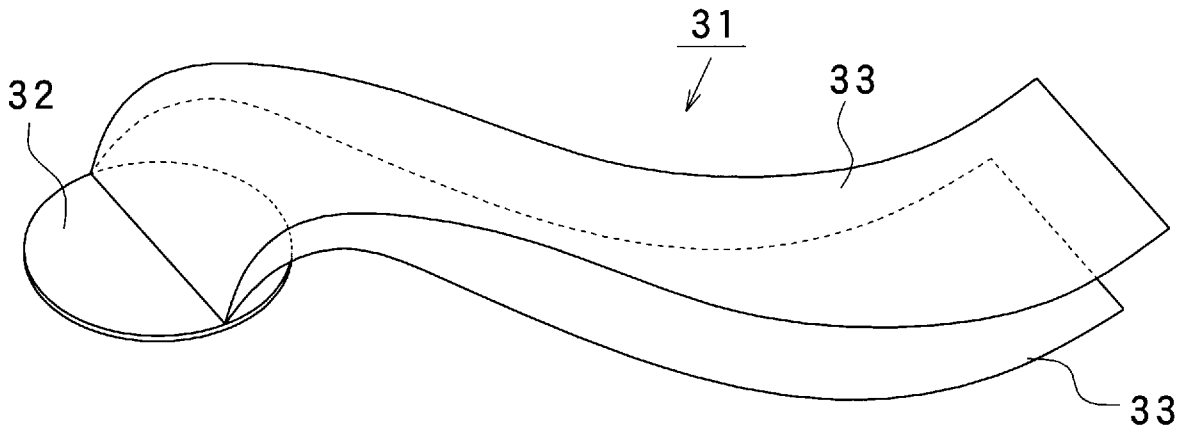
[図2]


(a)
13
15
14
11
12
(b)
102
104
105
106
103
11
(c)
106
105
108
104
107
0
15
30
45
60
75
90
(d)
11a
12
13b
13a
13c
14a
14b

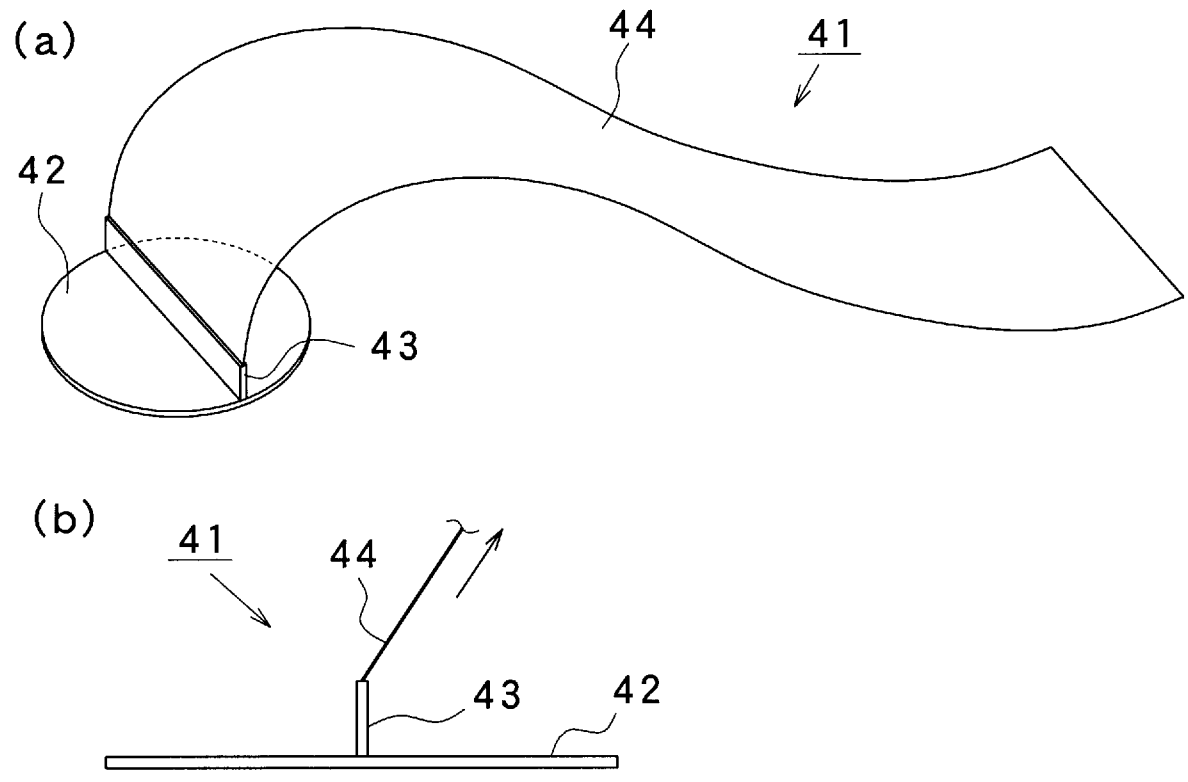
[図3]



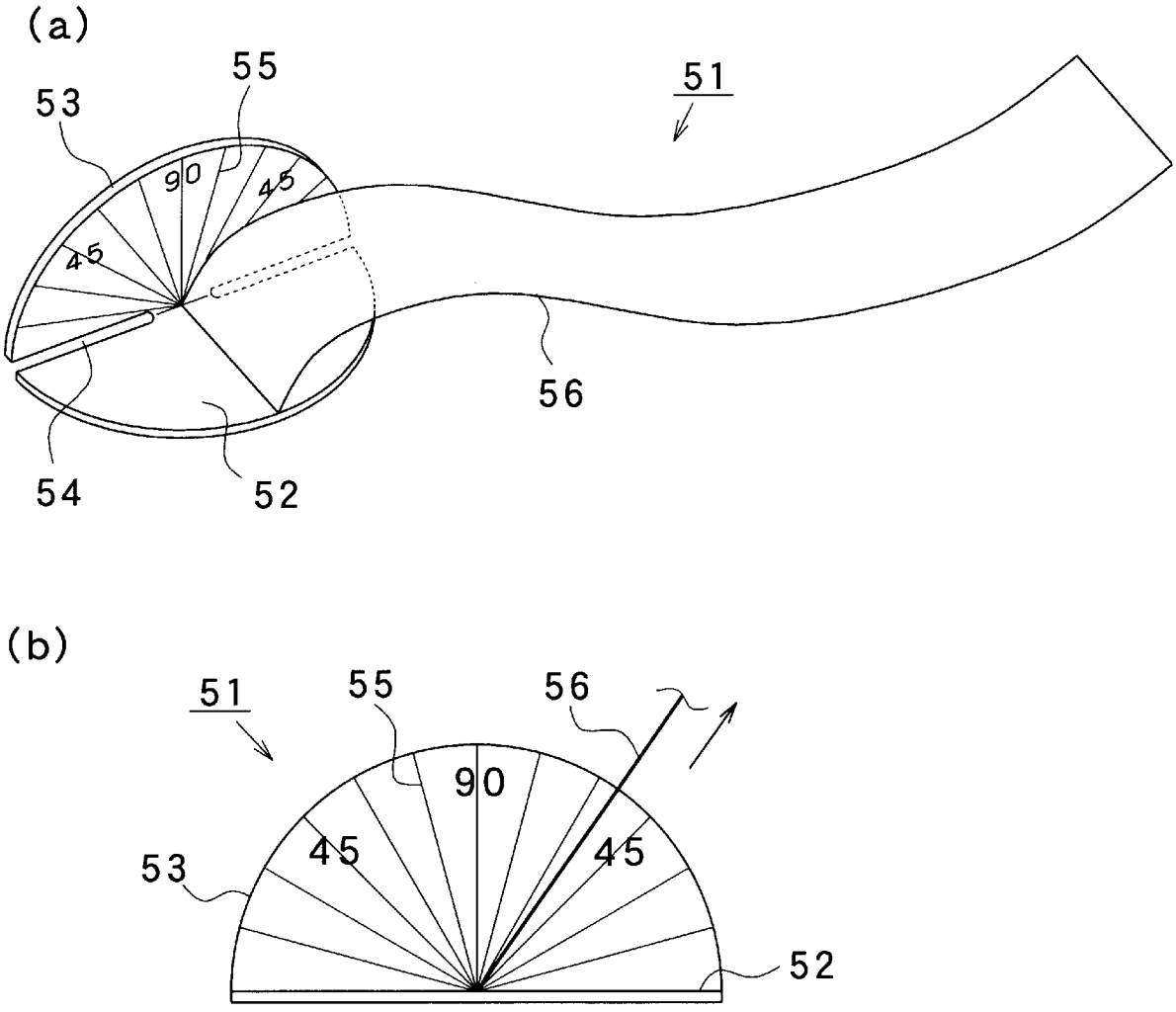
[図4]



[図5]

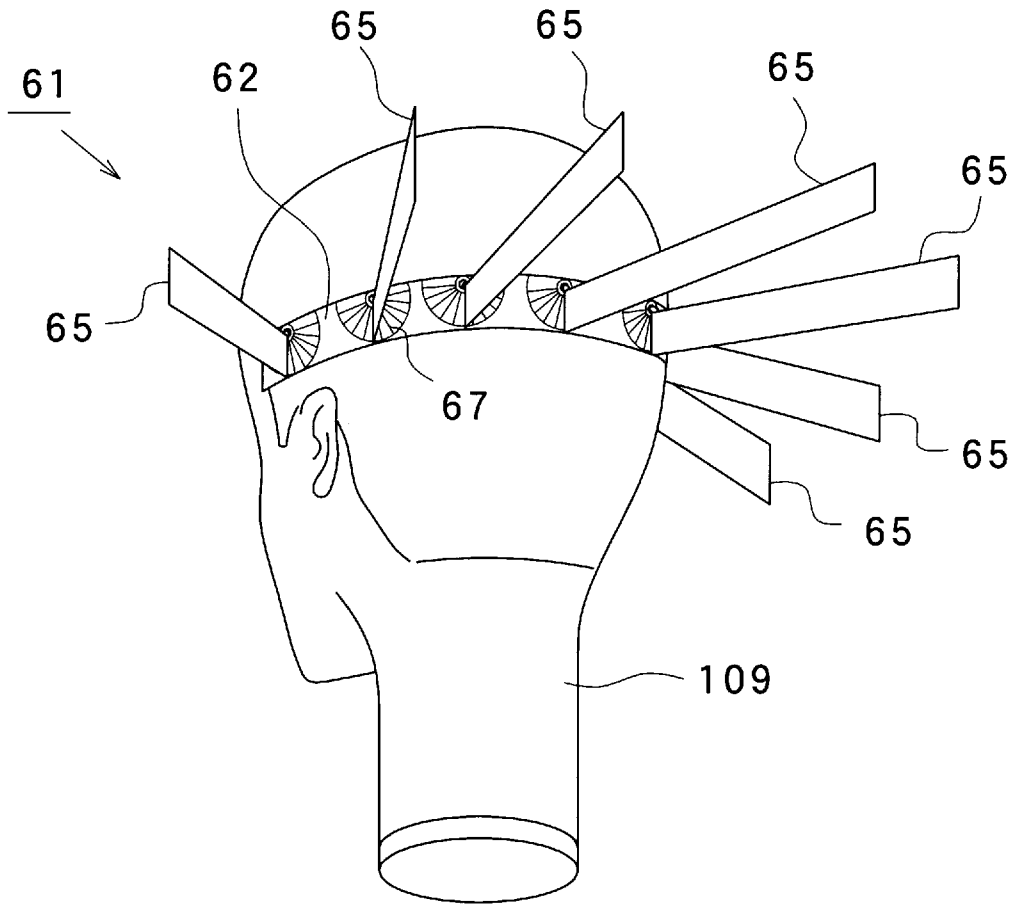


[図6]

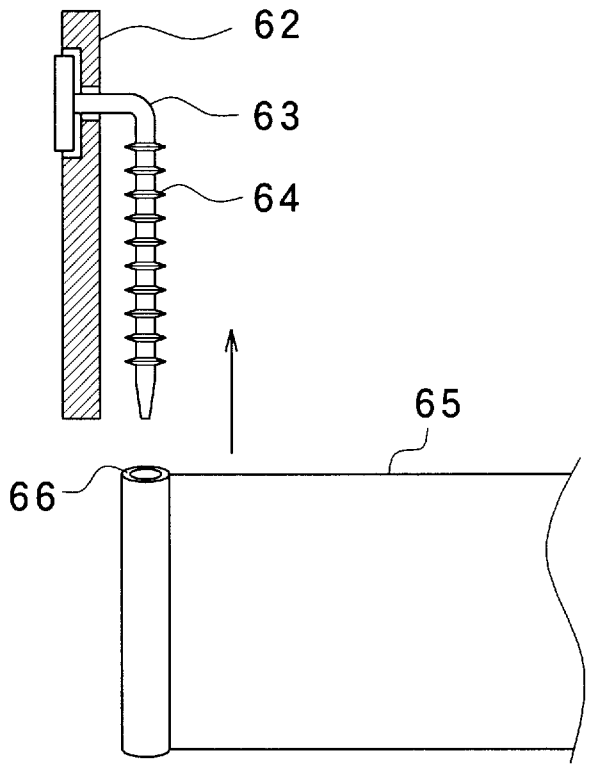


[図7]

(a)

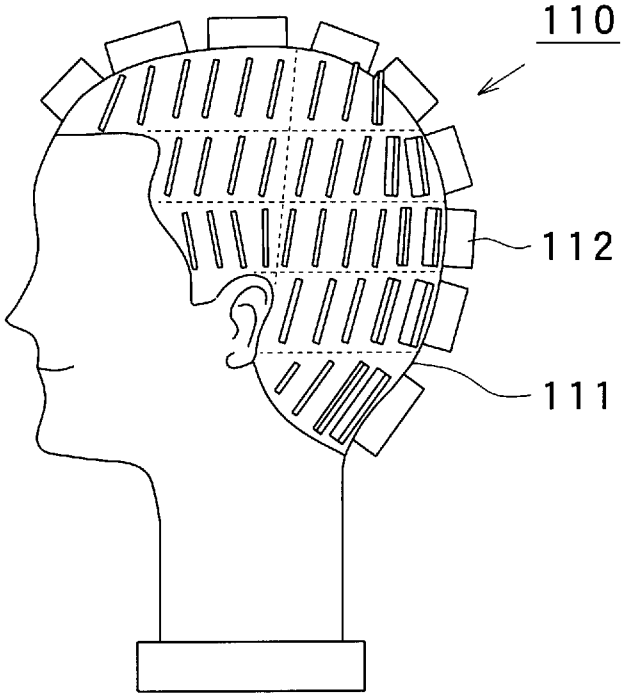


(b)

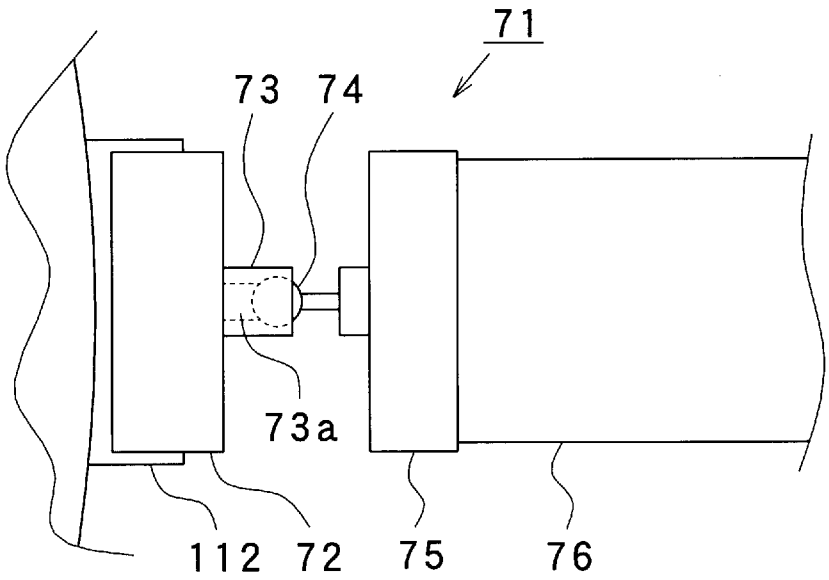


[図8]

(a)

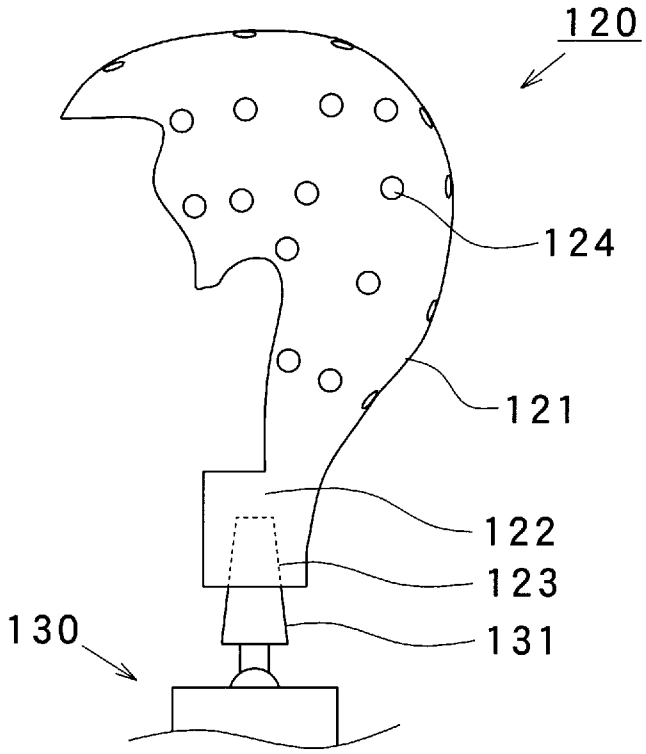


(b)

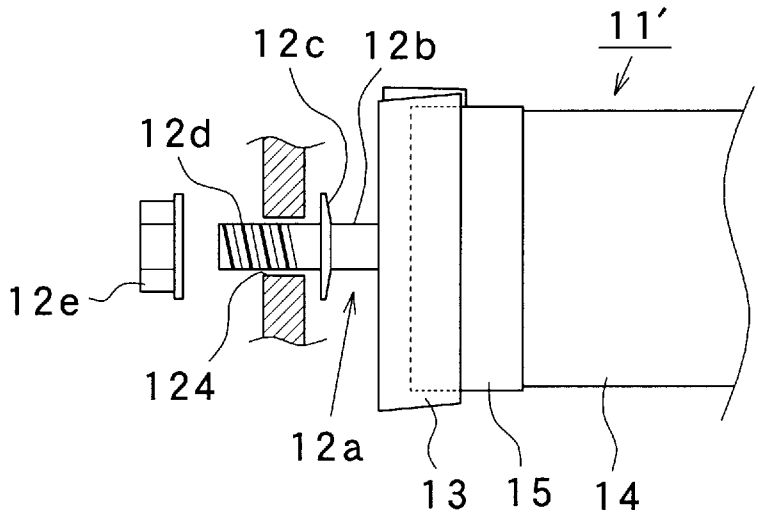


[図9]

(a)



(b)



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2007/056168

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
A45D44/14(2006.01)i, *G09B19/24*(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
A45D44/14, G09B19/24

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched
Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2007
Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2007 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2007

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y A	JP 57-47907 A (Wella AG.), 19 March, 1982 (19.03.82), Full text; Figs. 1 to 9 & US 4370137 A & GB 2083263 A & DE 3032860 A1	1,3 5,8 2,4,6,7
Y A	JP 2000-342333 A (Kabushiki Kaisha Yamano), 12 December, 2000 (12.12.00), Full text; Figs. 1 to 4 (Family: none)	5,8 2,4,6,7
A	JP 10-228232 A (Kabushiki Kaisha Sakushido), 25 August, 1998 (25.08.98), Full text; Fig. 1 (Family: none)	2,4,6,7

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report
07 May, 2007 (07.05.07)	15 May, 2007 (15.05.07)
Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office Facsimile No.	Authorized officer Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2007/056168

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	US 2919702 A (Anton P Olivo), 05 January, 1960 (05.01.60), Full text; Figs. 1 to 6 (Family: none)	2,4,6,7
A	FR 2634042 A1 (CHARLEMAGNE CLAUDE), 12 January, 1990 (12.01.90), Full text; Figs. 1 to 4 (Family: none)	2,4,6,7
A	FR 2752700 A1 (SARL GROWING SOCIETE A), 06 March, 1998 (06.03.98), Full text; Figs. 1 to 4 (Family: none)	2,4,6,7

国際調査報告

国際出願番号　ＰＣＴ／ＪＰ２００７／０５６１６８

Ａ．　発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A45D44/14(2006.01)i, G09B19/24(2006.01)i

Ｂ．　調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A45D44/14, G09B19/24

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報	１９７１－２００７年
日本国実用新案登録公報	１９９６－２００７年
日本国登録実用新案公報	１９９４－２００７年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

Ｃ．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求の範囲の番号
X Y A	JP ５７－４７９０７ A（ウエラ・アクチェンゲゼルシャフト） １９８２.０３.１９，全文、第１－９図 ＆ ＵＳ ４３７０１３７ Ａ ＆ ＧＢ ２０８３２６３ Ａ ＆ ＤＥ ３０３２８６０ Ａ１	１，３ ５，８ ２，４，６，７
Y A	JP ２０００－３４２３３３ A（株式会社ヤマノ） ２０００.１２.１２，全文、図１－４ （ファミリーなし）	５，８ ２，４，６，７
A	JP １０－２２８２３２ A（株式会社サクシード） １９９８.０８.２５，全文、図１ （ファミリーなし）	２，４，６，７

☑ Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。　☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

＊　引用文献のカテゴリー
「Ａ」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「Ｅ」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「Ｌ」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「Ｏ」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「Ｐ」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献
「Ｔ」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「Ｘ」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Ｙ」特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「＆」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日	国際調査報告の発送日
０７．０５．２００７	１５．０５．２００７

国際調査機関の名称及びあて先	特許庁審査官（権限のある職員）	３Ｒ	８８１９
日本国特許庁（ＩＳＡ／ＪＰ） 郵便番号１００－８９１５ 東京都千代田区霞が関三丁目４番３号	氏原　康宏 電話番号　０３－３５８１－１１０１　内線　３３８６		

Ｃ（続き）．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求の範囲の番号
Ａ	US ２９１９７０２ A (Anton P Olivo) １９６０．０１．０５，全文、第１－６図　（ファミリーなし）	２，４，６，７
Ａ	FR ２６３４０４２ A1 (CHARLEMAGNE CLAUDE) １９９０．０１．１２，全文、第１－４図　（ファミリーなし）	２，４，６，７
Ａ	FR ２７５２７００ A1 (SARL GROWING SOCIETE A) １９９８．０３．０６，全文、第１－４図　（ファミリーなし）	２，４，６，７